

禁止表現の日中対照

李 奇楠（北京大学）

要 旨

本考察を通して、日中両言語における禁止表現の特徴ならびにその使用実態を明らかにすることができた。本稿の対照研究によって、日本語も中国語も禁止を表す場合、構文的対応性があり、ともに文法化の進んでいる状況に置かれていることが分かった。ただ、日本語の場合、禁止表現の使用は人間関係などの要素により、中国語より表現スタイルの選択肢が多いと言える。また、《禁止》と他の発話機能との関係も視野に入れることにより、その語用論的交差機能の存在が確認された。

キーワード：禁止表現、日中対照、構文、発話機能、配慮表現

1. はじめに

我々は日常生活において、まわりの人々との情報交換や感情・思考内容・意志などを伝え合うことが必要であろう。それは音声、文字およびその他の視覚・聴覚に訴える身振りや表情などの手段によって行われるのである。このような行為が一般的にコミュニケーションと呼ばれている。

その中には、報告、依頼、謝罪、断わり、褒め、不満表明など数多くの発話行為が私たち自身によって遂行され、あるいは耳に入ったり、(文字言語の場合) 読んだりしているであろう。

禁止もその中の一員である。たとえば、私たちは家族に「勝手に入るな!」「笑うな!」など言われたことがあるだろう。家族にそう容赦なく禁止的発話をされて、怒りを感じる場合もあるが、お互い気軽に言い合っている場合が多いようである。

禁止は話し手(書き手)が聞き手(読み手)にある動作を行わない(中止する)ように要求する発話と定義できる。本稿は日本語と中国語における禁止の意味を表す表現の実態およびそれぞれの特徴を究明したいと考える。

2. 先行研究

対照の立場から語用論的に論じるものは、管見の限り、特に見られない。

日本語の禁止に関する研究は例えば、小柳(1996)、砂川他(1998)、山岡(2000)、小池他(2002)、牧原(2004)、山岡(2008)、山岡・牧原・小野(2010)などがある。小柳(1996)は上代の禁止表現についての歴史的研究であり、文型辞典である砂川他(1998)、小池他(2002)では、禁止表現の例文を挙げながら、構文的特徴について簡潔に触れた。山岡(2000)、牧原(2004)、山岡(2008)、山岡・牧原・小野(2010)などは語用論的立場から、発話機能のマクロ視野よりの理論的分析や、ポライトネスと禁止表現の関係について論じている。

本稿は上記の研究成果を踏まえた上で、中国語の禁止表現と対照・比較しながら、禁止

という発話機能の言語的メカニズムを追究してみたいと思う。

3. 告示における禁止表現

禁止表現は禁止される側のフェイスを脅かす度合いが高い表現と認識され、ふだんなるべくその直截表現を避ける傾向がある。しかし、下記のような場における禁止表現は頻繁に見られるであろう。

- (1) 「请勿倚靠 Keep Clear of the Door」

(地下鉄の電車に乗るとき、その入口の門に書いてあるフレーズ)

- (2) 「禁止煙火 NO BURNING」

(エレベーターの中に書いてある語句)

- (3) 「游人止步 谢绝参观 (見学者立ち入り禁止、見学をご遠慮願う)」

(公園のような某大学構内のある門に貼ってある紙に書いてあるフレーズ)

- (4) 「校内禁止燃放烟花爆竹! (構内では花火の打ち上げや爆竹を鳴らすことは禁止する!)」

(大学キャンパスのある横断幕に書いてある表現)

- (5) 「北京市人民政府提醒您: 禁止在下列地点及周边燃放烟花爆竹 (次のようなところおよびその周辺での花火や爆竹を禁ずる)」

(旧正月の間、北京市政府の告示に書いてある内容)

- (6) 入口のドアとそれに接した壁にある隣室へのドアには内側から木札がかかっていて、それには赤い正確な活字体で、立入禁止、禁煙と書きこまれていた。

(挨着入口的门旁侧的一个房间的门里面挂着木牌，上面用红色的端正的字体写着“禁止入内”、“禁止吸烟”的字样。)

(「死者の奢り」(原文)・「死者的奢华」(訳文))

用例(1)から用例(6)までに使われている禁止的語句はごく身近なものであり、おそらく毎日我々の目に映るであろう。

電車の中や地下鉄駅、公の場所などにおける告示板、掲示板に書いてある禁止表現が多いようである。特に丁寧な表現が使用されていないのは、不特定多数の人々を対象にしているからであろう。さらに、その多くは禁止される側の利益を考えた上で、そのような禁止の発話行為を実行しているのではないかと思う。

4. 会話における日中両語の禁止表現のタイプ

用例を集め、調べ、分析した後、次のような結論がまとめられた。日常会話では日本語の場合、禁止表現は主に以下のような構文パターンが使用されている。

- ① まず遂行動詞「禁止する」「禁ずる」の使用である。
- ② その次は、終助詞「な」の使用である。
- ③ さらに否定のマーカ―「ない」が使用される構文。たとえば、「～てはならない」「～てはいけない」「～るんじゃない」など。
- ④ 最後に、否定的意味を表す語句の使用である。たとえば、「だめ」「黙れ」「やめろ」「(～のは) ご法度」など。

以下のような用例がある。

(7) 「今度のテストで40点を下回ったら、部活に出ることを禁止します」

(“下次测验，要是考不到40分，你就别去参加俱乐部活动了。”)

(「五体不満足」(原文)・「五体不満足」(訳文))

それに対して、中国語の場合、日本語の終助詞「な」のような表現がないが、遂行動詞(“禁止”“严禁”)、否定マーカー“不”が使用される構文(“不许～”“不准～”“不能～”“不要～”“～是不行的”など)、否定の意味を表す語句(“闭嘴”“停下”)など、日本語の禁止表現と対応している。次の例(8)は遂行動詞“禁止”の使用例である。

(8) “不错，我禁止你笑！”觉慧顿脚地大声说。

(「そうだ。僕は兄さんの笑うのを禁ずる。」觉慧は地団駄ふんでいった。)

(「家」(原文)・「家」(訳文))

ただ、中国語には終助詞「な」のような使用がないが、“别”という禁止の意味を表す副詞の使用はその日本語の「～な」に対応している表現だとも考えられる。その「～(V)な」と“别(V)～”の関係については5節と6節の部分で具体的に考察する。

なお、今回の考察を通して、次のことが分かった。禁止を表す表現は、日中両語ともその文法化が進んでいて、慣習化された構文的特徴を持っていることが言えるであろう。

5. 「～(V)な」構文に対応する中国語の表現

まず日本語の「～(V)な」が使われる用例およびその対応する中国語の表現をいくつか見ておく。

(9) おれが存外真面目でいるので、つまらない冗談をするなと銭をおれの机の上に掃き返した。

(看到我一本正经的样子，就说：“别开这种无聊的玩笑啦。”又把钱扔回我的桌子上。／看到俺十分严肃的样子，他将钱一把推还到俺的桌子上来说：“别开无聊的玩笑！”／见我显得特别认真，就说：“别开这种无聊的玩笑啦！”把钱扔回到我的桌子上。)

(「坊ちゃん」(原文)・「哥儿」(1)(2)(3)(訳文))

(10) 「まあ、泣くな。しょうがねえさ」

(“得啦，别哭啦。没法子啊。”)

(「黒い雨」(原文)・「黒雨」(訳文))

例(9)は夏目漱石の名編「坊ちゃん」における「つまらない冗談をするな」の用例である。中国語訳が三つあるが、三つとも“别(V)～”が用いられている。考察によると、この対応が一番多く、日本語の「～(V)な」と中国語の“别(V)～”は構文的にも意味的にも一致性が高いことが言える。例(10)もそのような典型例の一つである。

なお、次の用例(11)から用例(16)までは、日本語の場合、いずれも「～(V)な」構文が使われているが、中国語の場合、“别(V)～”構文ではなく、否定辞“不”が用いられる“不要～”“不用～”“不能～”のような構文が使われている。これらは意味的にも日本語の「～(V)な」構文と対応している。ちなみに“别(V)～”構文と言い換えることができる。

- (11) 「動くな。動けば火のなかへころげるぞ。一寸さきは地獄だぞ。焼け死ぬぞ」と僕は唸鳴りつけた。
 (我大声吼道：“不要动！一动就会掉进火坑里去的。再往前挪一寸，就是地狱！会烧死的呀！”)
 (「黒い雨」(原文)・「黒雨」(訳文))
- (12) 「大丈夫だよ。心配するな。どうせ大した物は有りゃしないんだ。みんな新しくなるよ」
 (“你不用担心，反正又没有好东西，都买新的！”)
 (「青春の蹉跌」(原文)・「青春的蹉跌」(訳文))
- (13) 帯のなかに金・銀または銭を持つな。
 (腰袋里不要带金银铜钱。)
 (「斜陽」(原文)・「斜阳」(訳文))
- (14) 自分に同情するな
 (不要同情自己)
 (「ノルウェイの森」(原文)・「挪威的森林」(訳文))
- (15) 「誰にもいうな。里子はんにもあんまり世間へふれるなといいなさい。ええな。葬式は法類でしたる。ええか。早よ、いんで本堂の飾りつけしなさい」
 (“这事对谁也不能说。告诉里子夫人也少跟外界接触。这样吧，丧礼的事，让同派的分寺一起来办吧。行了，快，回去把大殿装饰起来！”)
 (「雁の寺」(原文)・「雁寺」(訳文))
- (16) 「そう云うな。俺はもう女を失うわけにはゆかない。お互に愛している。一人では生きられなくなりつつある。恐ろしい勢いで俺は二人でなければ生きられなくなりつつある。二人で生きるものは仕合せだと云う言葉は本当だ」
 (“不能那么说。我已经不能失去她了，我们真心相爱，一个人是无法继续生活下去的。我们两人生活在一起是势所必然。的确，只有我们两人生活在一起才是幸福的。”)
 (「友情」(原文)・「友情」(訳文))

以上の考察を通して、日本語の「～(V)な」構文と中国語の表現との対応関係をまとめてみると、下記の表のとおりになる。すなわち一対多の関係となっている。

表1 「～(V)な」構文とその対応する中国語の表現

～(V)な	別～ 不要～ 不用～ 不能～ ……
-------	-------------------------------

6. “別(V)～”構文に対応する日本語の表現

“別(V)～”は中国語の禁止表現において最も頻繁に使われている用法の一種だと言

える。結論を先に言うと、その大多数は日本語の「～(V)な」に当たるが、そのほかの言い方とも対応している。日本語の「～(V)な」より意味範囲が広い。つまりその発話機能が更に多岐的になっていることが、今回の考察を通して判明した。

(17) “海外关系。你可别跟别人说。”

(「外国との関係だとさ。他の奴には言うなよ」)

(「插队的故事」(原文)・「遙かなる大地」(訳文))

(18) “别逗了⁽¹⁾，你比我还大？”

(「冗談言うな。おれより年上の訳ないだろ」)

(「插队的故事」(原文)・「遙かなる大地」(訳文))

考察によると、用例(17)(18)のように中国語の“別(V)～”構文と日本語の「～(V)な」構文とが対応になっているケースが多い。ただ、文脈によっては、「～(V)な」構文ではなく、他のタイプの禁止表現や禁止的意味を表す表現になるものもある。たとえば下記の用例(19)から用例(22)までのようなさまざまな禁止表現の使い方がある。

(19) 别笑。这可是真话。

(笑っちやいけない。これは本当の話なのだ。)

(「盖棺」(原文)・「棺を蓋いて」(訳文))

(20) 卖原价？你吃饱了撑的，疯魔呀！别给我来这套！

(定価で譲るだなんて、ふざけたことを言うんじゃねえよ！)

(「轱辘把胡同9号」(原文)・「轆轤把胡同九号」(訳文))

(21) “别唱了，一会儿你姐姐该骂你了。”

(「うたうのはやめよう。あとできみが姉さんに怒られるから」)

(「插队的故事」(原文)・「遙かなる大地」(訳文))

(22) “大叔……你别走，不看僧面看佛面，不看鱼面看水面，不看我的面子也看豆官的面子上，留下吧，你要我……我也给你……你就像我的爹一样……”

(「あんた……行かないで、かんじんなのは坊さまより仏さま、魚より水、あたしじゃなく豆官のために、残っとくれ、なんでも……言うことはきく……自分の父さんだと思って……」)

(「红高粱」(原文)・「赤い高粱」(訳文))

以上の用例を分析してみると、中国語の“別(V)～”は必ずしも堅い禁止表現とは言えない。お願いのような懇願表現にも使われている。たとえば、上記(22)の中国語作品『赤い高粱』における“你别走(行かないで)”のような例である。日本語訳は「～ないで」となっていて、「～(V)な」に訳されていない。言い換えれば、訳せないことから分かる。ここでは、中国語の場合、“別(V)～”が使われているが、日本語になると、年下の話し手と年上の聞き手との人間関係や前後の文脈から判断して、禁止表現の典型的構文「～(V)な」が使えないことになっている。

なお、下記(23)のような例もある。中国語の禁止表現“别说话”は、日本語の場合、肯定的意味を表す命令文「静かにしろ」になっている。

(23) “别说话，听！”

「静かにしろ。聞け！」

（「插队的故事」（原文）・「遥かなる大地」（訳文））

ここまでの内容を以下の表のようにまとめることができる。

表2 “別～” 構文とその対応する日本語の表現

別～	～るな ～～のではない （「んじやない」などのような変種） ～（V）ないで その他 （「静かにしろ」（“別説話”の場合）など）
----	--

さらに、中国語では同じ一つの“別”が使われているが、日本語の場合、話し手（禁止側）と聞き手（被禁止側）の社会的人間関係によって「～（V）な」ではなく、他の表現を以って使い分けている。たとえば次の用例（24）である。

（24）“别净唠叨我！搞运动，您也跑不了！”

（「くどくど言わないでくれよ。“運動”が始まれば母さんだつて逃げられないさ。」）

（「轆轳把胡同9号」（原文）・「轆轳把胡同九号」（訳文））

例（24）は親子の会話で、禁止側の話し手は息子、被禁止側の聞き手は母親なので、終助詞「な」の使用ではなく、「～ないでくれよ」（やりもらいのマーカー「てくれ」が使われ、話者受益の依頼的表現に見せかけている）の表現となっている。

次のような興味深い用法も見られる。

（25）世上叫我“荣官”的只有两个人，一个是我的祖父，一个便是我的奶娘。我总记得她说：“荣官呀，你要好好读书，大了中举人，中进士，作大官，挣大钱，娶个好媳妇，儿孙满堂，那时你别忘了你是吃了谁的奶长大的！”

（この世で私を「荣官」と呼ぶのはふたりきりだ。ひとりは祖父で、もうひとりがこの乳母である。いまだに彼女のいったことを覚えている。「荣官さま、しっかりお勉強しなされ。举人になられ、進士になられ、大臣になられ、たくさんお金を手に入れて、きれいな奥様をもらいなされて、お子さまやお孫さまたくさんに囲まれてね。そのとき誰のお乳で大きくなったのか、忘れなさるな」）

（「关于女人」（原文）・「女の人について」（訳文））

上の例（25）は話し手（禁止の発話者）が聞き手（被禁止側）より年上だが、社会的地位から見れば聞き手のほうと雇用関係が発生するので、日本語の場合、身分・上下関係重視の発話「忘れなさるな」が使われ、動詞の部分は尊敬語「忘れな

さる」が用いられている。これに対し、日本語のような動詞の尊敬語的形態特徴を持たない中国語は、一つの動詞形“忘”のみの使用である。その意味で、中国語のおおらかさ、言語的には荒い特徴と、日本語の細かさ、繊細的特徴との対照図を成している。

7. 《禁止》と他の発話機能との関係

この7.では発話機能の立場から、《禁止》と他の発話機能との関係を考察する。

7.1. 《禁止》と《命令》

《禁止》は否定的命令、命令の一種だと見てよいと考える。山岡（2000）にも同じ主旨の内容が書いてある。引用すれば、次のようになる。

否定命令（＝禁止）の場合 接辞－runa

（山岡（2000:92））

なお、「意志動詞＋－runa」については、命令接辞－roと否定辞－na－が形態的に両立しないため、意味的に否定と命令を兼ねた（つまり禁止の）接辞として固有の形態を持ったものである。文機能としては<命令>に含めてよいと考える。

（山岡（2000:94））

たとえば、上記（23）の用例を再掲して考えてみる。

（23）“别说话，听！”

「静かにしろ。聞け！」

（「插队的故事」（原文）・「遥かなる大地」（訳文））

中国語の“别说话”は禁止の発話である。“说话”という行為を禁止しようという話し手の意志が分かる。日本語の「静かにしろ」は命令形である。聞き手に“说话”の行為が行われない状態に変えよという命令を出している。文字通りの意味はある行為をするように要求しているが、その反面、裏の意味は禁止になっている。

7.2. 《禁止》と《激励》

禁止表現の「～（V）な」構文が使われ、他の発話機能にもなる可能性がある。たとえば、次の用例（26）のようなものである。

（26）「くよくよするな。大きな気持でやれ。勝負は時の運だ」

（“不要缩手缩脚，放心大胆地干好了。胜负乃时运也。”）

（「青春の蹉跎」（原文）・「青春的蹉跎」（訳文））

用例（26）にある「くよくよするな」は「～（V）な」の文末形式が使われていて、禁止表現であるが、その直後のことば「大きな気持でやれ。勝負は時の運だ」という文脈から考えると、励まし、勇気付けの《激励》⁽²⁾という発話機能も果たしていると考えられる。

7.3. 《禁止》と《不満表明》

同じく禁止表現の「～（V）な」構文が使われ、《不満表明》との関係が発生する例もある。下記の用例（27）がそのような使用例である。

（27）「克平だけを特別扱いにするなよ」アルさんが文句をつけた。

（乙醇抗议道：“别光对克平特殊！”）

（「あした来る人」（原文）・「情系明天」（訳文））

用例（27）の「克平だけを特別扱いにするなよ」という発話は禁止であると同時に、話し手の「不満表明」を表す用例でもある。

7.2と7.3の考察から分かるように、「～(V)な」構文は文字通り、《禁止》の発話機能を果たしているが、文脈において、他の発話機能との交差現象も見られる。

7.4. 《禁止》と《表出》

7.2と7.3で考察の現象とは逆に、次の用例(28)は「～てほしい」という構文が使われ、《表出》の発話機能を果たしているが、その前の「やめる」という動詞の否定的意味に引きずられ、実質的には言外の意としては、禁止の発話機能も果たしている。つまり、話し手の願望を述べる文を通して、婉曲的に禁止の意を表しているのである。

(28) わけの分らん寝言はやめてほしいな。

(别说莫名其妙的梦话了吧。)

(「砂の女」(原文)・「砂女」(訳文))

8. 《禁止》と配慮表現

上記用例(28)の用法は《禁止》機能を果たす配慮表現だと言えるであろう。

《禁止》の配慮表現については、牧原(2004)では「状況提示型」を挙げている。この種の表現の使用を通して、婉曲的に《禁止》の機能を果たす用例を取り上げたもので、説得性がある。

確かに、《禁止》は相手の行動の自由を奪うような非礼儀的発話目的を持つので、その相手への侵害を低くするため、話し手は常になるべく相手の面子を立てるよう、発話の表現スタイルの選択あるいは相手にとって心地よい表現を取るなど、さまざまな工夫が必要であろう。

たとえば「芝生に入らないよう」にするため、一昔は“请勿践踏草坪(立ち入り禁止)”のような直截的禁止表現が使われていたが、現在は次のようなさまざまな配慮表現が使用されている。

(29a) 小草在生长 请勿打扰

(草が生えている お邪魔しないように)

(29b) 踏破青毡可惜 绕行数步何妨

(青い絨毯を踏むのが惜しい ちょっと遠回りはいかが)

(29c) 践踏会使 青草枯萎

(上を踏むと、青草が萎える)

(29d) 爱护花草 造福人类

(草花を大切にすれば、人類の幸せに貢献する)

(29e) 绿色是生命之源

(緑は生命の源)

用例(29a)には状況提示型の表現“小草在生长(草が生えている)”が使われ、(29b)

(29c)は禁止される動作つまり「芝生に入ら」たら、好ましくない結果が生じることを提示・指摘し、(29d)は「芝生を大切にすれば、人類の幸せに貢献する」行為をすれば、すばらしい効果があることをアピールし、(29e)は「緑は生命の源」という常識のテーゼをメタファー的に表している。(29a)から(29e)まではいずれも配慮表現の使用例であり、それぞ

れの配慮表現を通して、間接的に《禁止》の機能を果たしている⁽³⁾。

9. おわりに

《禁止》の場合、強い禁止からやさしい禁止まで、更に配慮的になると、もはや禁止表現ではなくなるが、最終的な目標として、ある行為をしない（やめる）ように仕向ける作用を考えると、間接的禁止表現だと理解してよいであろう。

ただ、禁止表現は、被禁止側の行動自由を直接的に制限するから無礼、非ポライトネスだとは断言しきれない面もあると思う。親しさ故に直接的な禁止表現が使われる例もあるからだ。

知らない人間同士は互いに配慮がいらないため、禁止表現を使いやすい。ごく親しい間柄なら、同じく遠慮不用の直接的禁止表現も使える。禁止表現のこのような両極端に応用できる性質はじつに興味深い言語現象だとも言えるであろう。

注

- (1) “别逗了”という中国語の禁止表現には、いくつかの日本語訳が見られた。たとえば「冗談言うな」「からかわないで」「ふざけるなよ」など。ある意味で、言語化現象が細かく分かれている日本語の特質がここからもうかがわれる。
- (2) 本稿における《激励》という発話機能に関しては、詳しくは山岡（2008）を参照されたい。ちなみに本稿で使われている「発話機能」については、その定義づけや理論体系は山岡（2008）に負うところが大きい。
- (3) なお、“禁止吸烟 谢谢合作（喫煙、ご協力ありがとうございます）”のような例は禁止表現と謝意表明との併用の例である。このような過渡的な使用例も実際よく使われている。

参考文献

- 池上嘉彦（2007）『日本語と日本語論』ちくま学芸文庫
- 奥津敬一郎（1983）「授受表現の対照研究—日・朝・中・英の比較」『日本語学』4月号 22-30
- 小野正樹（2010）「現代日本語の命令形について—日本語学習者の習得と意識—」『国際日本語研究』第3号 79-98
- 小池清治他編（2002）『日本語表現・文型辞典』朝倉書店
- 小柳智一（1996）「『禁止』と『制止』—上代の禁止表現について—」『国語学』184 1-13
- 砂川有里子他編（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 牧原 功（2004）「状況提示型の策動性モダリティ」『日本言語文化研究』第五輯 51-63
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃（2002）『モダリティ』くろしお出版
- 山岡政紀（2000）『日本語の述語と文機能』くろしお出版
- （2008）『発話機能論』くろしお出版
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現』明治書院
- 山岡政紀・李奇楠（2004）「依頼表現の日中対照研究」『日本语言文化研究』第五輯 131-160
- 楊凱榮（1985）「『使役表現』について—中国語との対照を通じて」『日本語学』4月号 59-71
- 丁声樹等（1961）『現代漢語語法講話』商務印書館
- 李奇楠（1998）「日語中的規約性間接言語行為与非規約性間接言語行為」『北京大学学报（外国语言文学專刊）』130-135
- 劉月華・潘文娛・故韡（2001）『实用現代漢語語法』商務印書館
- 徐昌華・李奇楠（2001）『現代日語間接言語行為詳解』北京大学出版社

Grice, H.P. (1989) *Studies in the way of words*, Harvard University Press.

Searle, J.R. (1979) *Expression and Meaning: Studies in the Theory of Speech act*, Cambridge University Press, Cambridge.

用例出典

『中日対訳コーパス』(2003) 北京日本学研究センター

(李奇楠、北京大学外国語学院准教授、liqinan@pku.edu.cn)